

# 天文学とプラネタリウム

第47回



www.tenpla.net



今月のお題

## 「宇宙を表現する」



国立天文台が始めた「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット」など、天文学とアートを結びつける動きが広まりつつあります。

高梨直紘（東大D3／天文学教育研究センター所属）

平松正顕（東大D3／国立天文台ALMA推進室所属）

私たち天プラは、宇宙の魅力、あるいは天文学の面白さを多くの方と共有したいと思って様々な活動を展開しているわけですが、例えばこのコラムを担当している高梨や平松のように、天文学を専門とする人間では努力してもなかなか足りていない部分が少なからずあります。天文学の面白さの本質を捉えた魅力的な見せ方について洗練されていないというのも、そのひとつではないでしょうか。良くも悪くもスタンダードな天文学の学び方をしているため、その枠を飛び出す発想がなかなか出来ないのです。天文学とはまったく異なる分野を専門にしつつ、でも、宇宙が好きという人だからこそ出来る発想というのは、少なくないと考えています。特に、広い意味での芸術系の素養を持った方には、もっと宇宙を表現してもらえると嬉しいなあ、と日々願っています。思い起こせば、私たち天文学を専攻する人間がもともと宇宙の魅力に触れたきっかけといえば、きれいな天体図鑑だったり、星座神話の本であったり、あるいは学習マンガだったりするわけです。このようなアイテムに留まらず、多くの人を魅了する作品を提示

できる次世代の才能を育てるお手伝いを、天プラでもしていければと考えています。

### 来たれ、アートな人！

じゃあ、どんなところで協力したら良いでしょうか？ 真っ正面から切り込むには、芸術系大学、専門学校等に在学する学生さんに、最新の天文学に触れるための機会を提供するというのもひとつの手でしょう。調べてみると、教養講座として天文学に特化した授業を開講している日本の学校はないようです（あったらぜひ教えてください！）。しかし、美術系活動をされている方の中には、宇宙に強い興味を持っている人が多くいるのもまた事実。集中講義、あるいは自主ゼミなどで天文学講座を開催できるような仕組みがある学校に在学する皆さんがいまいたら、ぜひコンタクトを！一緒に講座を企画しましょう。

もちろん、既に独自に勉強会やグループを組織している天文ファンの方も少なくないようです。そういった活動をされている方は、声をか

■「Mitaka Plus Wiki」開設しました！



二人とも無事に博士論文が合格しました(^ ^)ノ

けていただければ面白そうな話を見繕って会にお邪魔しに行く、なんてことも可能ですので、ぜひ声をかけてみてくださいませ。SF、天体写真、映画、文学、ゲーム、漫画、アニメ、イラスト、なんでもござれです。いろいろな人とお互いにコミュニケーションする中で、新しい宇宙の楽しみ方が提案できれば良いですね。